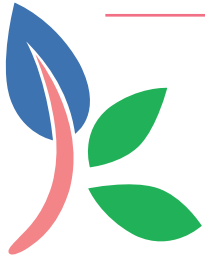


地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌



京都中部総合医療センター

Kyoto Chubu Medical Center

旧：公立南丹病院



期待や不安、緊張でいっぱいだった入学式から3年が経ち卒業の日を迎えました。3年間の学生生活では、嬉しいこともあれば自己の未熟さに悔しくて泣いたこともありましたが、しかし、受け持たせていただいた患者さん、指導者・スタッフの方々、先生方など多くの人に支えられた日々の中で、自己成長に繋がっていったと思います。この学校に来たからこそ、同じ夢を持った仲間に出会うことができ、共に実習や国試を乗り越えこの日を迎えられたことを嬉しく思います。この出会いや学び、感謝の気持ちを胸に、立派な看護師を目指し今まで以上に努力し続けていきたいと思っています。

公立南丹看護専門学校 卒業生 ^{しかた} 鹿田 ^{もえ} 萌

臨床研修指定病院 地域がん診療病院 救急告示病院
日本医療機能評価機構認定病院 ヘき地医療拠点病院
第二種感染症指定医療機関 地域周産期母子医療センター
京都府地域リハビリテーション支援センター エイズ拠点病院
京都府難病医療協力病院 地域災害医療センター
DMA T 指定医療機関 認知症疾患医療センター

京都中部総合医療センター

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地

TEL 0771-42-2510(代) FAX 0771-42-2096

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>





病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人情報の保護を受ける権利
5. 自分の健康情報を正確に提供する責務
6. 説明を理解するまで問う責務
7. 病院での規則に従う責務

2018.4

Vol.38

春号

CONTENTS

- 院長挨拶 ①
- 退任のご挨拶 ②
- 就任のご挨拶 ②
- 赴任医師のご挨拶 ③
- 第2回 南丹カップ ⑤
- 公立南丹看護専門学校 ⑥
- 看護師として2年目を迎えて ⑦
- 旬の食材で健康なからだと栄養管理 ⑦
- 診療科紹介 ⑧
- 近隣の連携医療機関の先生方 ⑨
 - 高屋こども診療所
 - 医療法人 中川幹也歯科診療所
- 看護部のユニフォームが
新しくなります ⑩
- 京都中部総合医療センターの
救急体制 ⑩
- かかりつけ医を持ちましょう
- 看護師・助産師募集
- 編集後記

院長挨拶

うららかな春に

院長 辰巳 哲也



寒い冬もようやく終わり、街並みからさわやかな梅の香が漂う季節が来ました。菅原道真も愛したこの気品ある香りに早春を感じ、美しく咲き誇る桜にうららかな春の訪れを味わっています。皆様におかれましては、健やかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

いよいよ4月より平成30年の新年度が始まりました。平成30年の医療界を巡る現状を私なりに整理すると、1) 診療報酬・介護報酬の同時改定、2) 医療計画の見直し、3) 医師の働き方改革への議論、4) 新専門医制度の開始、5) 地域医療構想の策定と実行、6) 国民健康保険の都道府県単位化などが挙げられるかと思っています。診療報酬は今回も実質マイナス改定であり、病院経営は益々困難な時代になっていくことが予想されます。また医師の働き方改革、新専門医制度、地域医療構想の策定・実行などは地域における医療提供体制のあり方とセットで議論すべき課題ではありますが、なかなか医師不足や医師・診療科の偏在が解消されない現状が続いています。医師には応召義務もあり、医師の健康に十分な配慮をしつつ、医療崩壊を来たさないようしくみ作りが必要です。政府はもちろんのこと、多くの有識者や医師会、病院団体が来るべき超高齢化社会に向けて、地域で暮らす国民の皆様へ納得いただけるよう懸命に案を見出す責務があると思っています。

京都中部総合医療センターは地域医療支援病院の承認に向けて取り組んでおります。日頃よりお世話になっている病院・診療所の先生方にはこの場をお借りして、心より御礼を申し上げます。今後も医療連携・協調を益々促進させて、地域の医療従事者の方々と顔の見える関係を深めていきます。また新専門医制度に対応した教育体制の整備と医療資源の確保を行っていきます。今後、病院をあげて「働き方改革」を踏まえた効率的な労務環境整備を推進していく努力も必要と考えています。

4月からはまた多くの新しい仲間を迎えました。医師部門では数年間常勤医師が不在であった精神科に中村先生が赴任していただくことになり、精神科疾患とともに認知症対策にも対応してもらえると思います。また歯科口腔外科には雨宮先生が赴任され、歯科手術数が増えると期待しています。消化器外科、消化器内科、放射線科はスタッフが増え、さらに診療が一層充実することと思います。循環器内科、腎臓内科、小児科、小児外科、産婦人科、泌尿器科、麻酔科はメンバーが変わります。4月から勤務いただけるすべての職員の皆様には心からの歓迎と今後の御活躍を期待しています。京都中部総合医療センターは地域の基幹病院としての責任と自覚を持ち、最適な医療を住民の皆様へ提供するため、職員一丸となって頑張りますので、今後とも皆様の御協力と御支援を賜りますようどうか宜しくお願い致します。

「久方の 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ」
紀 友則の百人一首の歌です。日の光が降りそそいでいるのどかな春の日の桜を惜しみながら、今年も皆さまの春がさわやかで心温かなものでありますようにお祈りしております。



退任のご挨拶

変革の時代を歩んで

前看護部長 なかがわ はる み 中川 春美



昭和50年代よりこの南丹地域に住み、当院で看護師として勤務し早40年が経ち、平成30年3月末をもちまして退職させていただくことになりました。平成26年からは看護部長とし、看護部の運営や病院経営に至るまで活動させていただき、このような私が定年まで大過なく務めることができましたのも皆様方のご支援とご指導のおかげでございます。心から厚くお礼申し上げます。

私が就職したときの公立南丹病院（現：京都中部総合医療センター）は、まだ平屋建て木造の病棟がありました。それから幾多の増改築がなされ平成15年には病床数が464床となり、大学病院のように多くの専門医療ができるようになりました。これもひとえに地域の方々のご支援ご指導や職員の努力のたまものでございます。

この40年の間には泌尿器科診療開始準備、放射線科の移転、RIの導入、救急室の設置、看護診断の導入、電子カルテの導入、病院機能評価受審準備、看護必要度評価の導入、看護部長に就任してからは回復期リハビリテーション病棟や訪問看護ステーション、地域包括ケア病棟の開設など、病院が変革していく時期に何らかの関わりをさせていただき、常に心温まる看護の提供を心掛けて参りました。これも私どもを支えてくださいました職員の方々のご協力があったからこそと感謝申し上げます。

今後も地域住民の生命・健康を守るという重責を果たすため、職員全体が自己研鑽し努力し続けられている京都中部総合医療センターが益々発展することを心から願っております。

就任のご挨拶

地域への貢献を

看護部長 かわかつ とも こ 川勝 智子



平成30年4月1日付けをもちまして、なかがわ はる み中川 春美前看護部長の後任として、看護部長に就任させていただくことになり、この重責に身の引き締まる思いです。当院は、昭和11年に「南丹病院」として開設され、平成29年5月より「京都中部総合医療センター」に名称が変更されました。この病院は地域を支える拠点病院として役割を担い、地域の方々に愛され、育てていただいている病院です。病院のロゴマークは、1本の木が地域医療の中心的存在を、3枚の葉がそれぞれ生命、健康、信頼を表現しています。看護部としても心温まる看護を提供し、患者さんに安心・安全な入院生活を提供し、他職種と協調しながら地域に貢献できる看護をめざしていきます。

平成30年度には、人生100年を見据えた社会の実現、どこに住んでも適切な医療・介護を安心して受けられる社会の実現、医療・介護現場の働き方の推進を基本方針として、診療報酬と介護報酬が同時改定されます。少子高齢化もますます進み、医療環境や患者家族を取り巻く環境は大きく変化していくと思われますが、地域の皆さまや患者さんに「この病院を選んでよかった。」と言っていただけるような看護をめざしたいと思っております。今後とも地域の皆さまのご支援をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

赴任医師のご挨拶

腎臓内科

医師 ^{おおた のりよし} 太田 矩義 (平成19年卒)

医師となった卒後6年目に当院（当時：公立南丹病院）で勤務しており、臨床医の礎となるような経験と勉強をさせていただきました。その後は、京都第一赤十字病院・JCHO神戸中央病院で勤務していました。平成30年春から、再び京都中部総合医療センターへ赴任することに喜びを感じております。丁寧な診療を心がけます。よろしくお願いいたします。



医師 ^{なか た ともひろ} 中田 智大 (平成26年卒)

昨年度までは京都山城総合医療センターに勤務しておりました。丁寧で分かりやすい診療を心がけ、地域の皆様のお役に立てるよう精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



医師 ^{みなみ た あつし} 南田 敦 (平成28年卒)

昨年度までは京都府立医科大学附属病院で働いておりました。まだまだ至らぬ点も多くご迷惑をおかけする事も多々あるかと思いますが、少しでも地域の皆様のお役にたてるよう精一杯精進して参ります。宜しく申し上げます。



消化器内科

医師 ^{うえ た ともひろ} 上田 智大 (平成19年卒)

昨年度までは京都府立医科大学大学院にて研鑽を積んでおりました。専門は消化器疾患診療、内視鏡治療です。微力ではありますが、地域の皆様の健康増進に貢献できますよう精進いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



医師 ^{ど ひ も ゆ} 土肥 萌由 (平成21年卒)

患者さんの立場に立った医療を心がけ、微力ながら南丹地域の消化器内科医療に少しでも貢献できるよう精進して参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



循環器内科

医師 ^{おの けんし} 小野 拳史 (平成28年卒)

持ち前の体力と明るさを活かして、地域の皆様のお力になれるようまだまだ微力ではございますが誠心誠意日々精進して参りますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



外科・消化器外科

医師 ^{たま い みず き} 玉井 瑞希 (平成28年卒)

至らぬ点ばかりで、ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、南丹医療圏の地域の皆様方のお役に立てるよう精進いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。



小児外科

医師 ^{たに ぐち あきひろ} 谷口 彰宏 (平成27年卒)

外科・小児外科の専攻医としてお世話になります。京都府立医科大学を卒業し、今年で医師4年目になります。ハイレベルな医療を提供されている中で、少しでも積んできた経験を活かすことができるように頑張りたいと思います。未熟で至らぬところも多いと思いますが、よろしくお願いいたします。



泌尿器科

医師 ^{かゆ かわ なるひろ} 粥川 成優 (平成20年卒)

松ヶ角先生の後任で平成30年3月から勤務しております。3月までは京都府立医科大学大学院で研究をしていました。微力ながら地域の皆様のお力になれるよう尽力いたします。珍しい名前が続きますが、お見知りおきよろしくお願い申し上げます。



小児科

医師 ^{すえまつ まさ や} 末松 正也 (平成23年卒)

京都府立医科大学病院での勤務を経て、2年半ぶりにまた当院でお世話になることとなりました。地域の小児科診療に貢献できるよう、精一杯精進して参りますので、よろしくお願い致します。



医師 ^{た な か せい じ} 田中 誠治 (平成24年卒)

昨年まで京丹後市立久美浜病院に勤務していました。学生時代に実習させていただき、故梶田院長や計良先生をはじめ、スタッフの皆様には大変お世話になりました。その頃から是非とも働きたいと思っており非常に感慨深く思っています。よろしくお願い致します。



医師 ^{みつ の こう へい} 三野 耕平 (平成26年卒)

まだまだ未熟で至らぬ点も多いかと存じますが、地域の皆様が元気に生活を送る手助けができるよう、日々精進いたしますので、どうぞよろしくお願い致します。



麻酔科

医長 ^{やまぐち よう すけ} 山口 陽輔 (平成19年卒)

昨年度までは京都府立医科大学に所属しておりました。地域の医療に貢献できるよう頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



医師 ^{むか い のぶ ひろ} 向井 信弘 (平成21年卒)

4月から麻酔科医員としてお世話になります。病院名が公立南丹病院であった数年前に2年ほど勤務させていただいておりましたが、また気持ちを新たに頑張りたいと思います。よろしくお願いします。



産婦人科

医師 ^{たかはし ゆう じ} 高橋 裕司 (平成22年卒)

大阪出身で京都府立医科大学を卒業後、5年の遠回りを経て舞鶴で2年研修しました。医師4年目でまだまだ未熟者ですが、南丹医療圏に貢献できるよう精進いたします。よろしくお願い申し上げます。



放射線科

部長 ^{あか だ わたる} 赤田 渉 (平成5年卒)

大学をはじめこれまで多くの病院に勤務し、画像診断を中心に放射線診療に携わってまいりました。今回は初めて部下のいる上司という責任ある立場になりかなり緊張しております。皆様の診療のお役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。



歯科・口腔外科

部長 ^{あめみや たけし} 雨宮 傑 (平成12年卒)

本年度より歯科・歯科口腔外科部長職を拝命いたしました雨宮傑と申します。京都府立医科大学にて研鑽を重ねて参りました。みなさまに信頼される病院として地域医療に貢献してまいります。まだまだ若輩者ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



精神科

医長 ^{なかむら みつ お} 中村 光男 (平成16年卒)

南丹地域の中核拠点病院で医療に携わる責任の重さを痛感しております。何かと至らない点もあるかと存じますが日々研鑽して参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。



第2回 南丹カップ

「第2回南丹カップ」を開催して

救急看護認定看護師 まえだ えりこ 前田 絵理子

私たち看護師は、それぞれの所属部署で日々患者さんへの看護を行い、様々な経験を積み重ねて学びを深めています。所属部署によって求められる知識や援助は異なるため専門性も必要となり、日頃経験できない援助も多くあります。さらに、24時間提供される看護は一人で行うものではなく、チーム全体で個々の患者さんに寄り添う必要があります。講義を受けたり参考書を読んだりするだけではイメージしにくいいため、現場で想定される条件を取り入れて、実際に近い状況を作り出した、体験型の研修会がすすめられています。

昨年度、さまざまな看護場面における課題を設定し、部署毎の看護チームがその課題を攻略していく競技会「第1回南丹カップ」を開催しました。各課題では各所属長や認定看護師などが指導にあたり、参加メンバーと共に看護について考える時間となり、看護における課題を見出すことができました。参加メンバーからは、チームメンバーへの感謝やお互いを尊重する気持ち、チームで協力することの大切さ、先輩看護師を尊敬する気持ちなどの感想が多数聞かれました。今年度は昨年度の内容を再検討し、平成29年11月11日（土）に「第2回南丹カップ」を開催しました。医師の協力も得て、昨年度は経験できていない看護場面の課題を設定し、さらにチームワークを高め楽しく取り組めるよう「チームビルディング」を取り入れました。



「チームビルディング」とは「仲間が一丸となって、一つのゴールに向かって進んでいく組織づくり」のことです。その研修として、指定された道具やルールに従い、制限時間内に自立式のタワーを作るゲームを行いました。各チームの工夫が見えるタワーが作成でき、参加者からもこのゲームにより「チームワークを高めることができた」という意見が聞かれました。今後も、楽しみながら実践に活かせる研修会を企画し、よりよい看護を目指して取り組んでいきたいと思っています。

「第2回南丹カップ」に参加して

手術室看護師 やまもと あきのり 山本 章了

「第2回南丹カップ」に参加して、普段手術室では関わることはない分野について学ぶことができました。手術室での業務は専門的であり、その反面一般的な看護業務には触れる機会が少ないです。今回フィジカルアセスメントなど手術室でも必要な分野については知識を深めることができ、病棟看護や緩和ケア等あまり関わりのない分野については新しく学ぶことができました。

また、チームビルディングでは手術室のメンバーで作戦をたて、役割分担を行って良い結果を出せたことで、団結力が高まったと感じました。結果的に優勝することもでき、得られるものが多い一日となりました。機会があれば次回もぜひ参加したいと思います。



特別講演 「医療者として後輩におくる言葉」

副学校長 ^{もり} 森 ^{みずえ} 瑞枝

国際ソロプチミストアメリカ・日本中央リジョン・バストガバナー・つしまクリニックで院長をされています。対馬 信子先生をお迎えし「医療者として後輩におくる言葉」と題した特別講演を行っていただきました。女性医師の先駆者として、また「ヒト微小循環用顕微鏡システム開発と応用」での受賞など功績も多く、現在も医院を開設し院長先生として多くの患者さんに寄り添う医療を実践されています。また、もう一つの顔として女性の世界的組織である女性と女兒の生活向上を高める奉仕活動である国際ソロプチミスト（国連の諮問機関であるNGO）で長きにわたり奉仕活動に努められています。

講演の内容は対馬先生が海外研修時代に携わった心臓血管・人工臓器についてのお話、また勉強ができたので「信子ファースト」として優遇されてきたが、研修医になり「次の人に譲る」ことを覚えたそうです。そして新人医師の時には患者さんが話しやすい問診となるよう身だしなみを整えることや、丁寧な問いかけをすることで患者さんが大事な情報を教えてくださったこと、また病気だけを診るのではなく、その人の育ってきた環境・社会的背景を知ること大切だと話されていました。

学生達は教科書でしか知らなかった昭和時代の医療・看護をふりかえり、医療者は患者さんから多くのことを学ぶこと・患者さんを診る時は患者さん本人のみならず、とりまく環境も大切にすることを感じていました。そして、対馬先生は働きやすい環境を作ってくれた看護師さんにも助けられたとの言葉もあり医療チームとしての連携も大事にしていきたいと学生は感じていました。

また国際的な奉仕活動があることを聞き、世界に視野をひろげる時間にもなりました。医療において大切なことは「おもいやり」「人の心に寄り添う」であると、贈る言葉をいただき新たに看護の道に歩みたいと思う機会になりました。



3年生を送って

14期生（2年生） ^{ごほう} 五宝 ^{みゆき} 美幸

先輩方との思い出を振り返ってみると様々な思い出があります。患者さんとの関わりについて悩んでいた時、臨床での日常生活援助の方法・留意点について助言していただいたおかげで基礎実習を終えることがで

きました。また、学生会活動やクラブ活動においても、部長をはじめとする先輩方がリーダーシップをとってくださり私たちは思い出深い、充実した日々を送ることができました。

そして迎えた卒業式では、先輩方の姿がとても凛々しく感じられ、3年間の達成感や苦悩が伝わってきました。私も、先輩方のような素晴らしい姿になり夢を叶えるために日々の学校生活での勉強や実習に励んでいきたいと思います。



看護師として2年目を迎えて

第二病棟2階西病棟 おく い みず き にしむら あ や か まつおか ななみ や ぎ
奥井 瑞希 西村 安耶香 松岡 七海 八木 あおい

看護師として働き始めて一年が経ちました。入職当初は右も左も分からず毎日不安でいっぱいでしたが、先輩達のご指導や励ましの言葉に助けられ、今では複数の患者さんを受け持たせてもらい、色々な検査や処置を担当することも段々と増えてきました。第二病棟2階西病棟は循環器系の疾患が多い病棟ですが、心疾患だけでなく、脳梗塞や肺炎、腎不全など様々な疾患で入院される患者さんもおられます。疾患や症状、治療への知識が不十分なこともあり、まだまだ学ぶべきことは多くありますが、先輩に助言をいただきながら患者さんがより安全に、より安楽に治療を受けられるにはどうすればよいか考えながら日々努めています。また他職種との連携も多く、一人の患者さんを多方面からとらえることで気付くこともたくさんあり、スタッフ間での連携の大切さや必要性も学ぶことができました。

日々忙しい中ではありますが、患者さんや家族さんからの温かい言葉や笑顔に、うれしさはもちろん看護師としてやりがいを感じることもたくさんあります。

これから2年目がスタートしますが、看護師として責任感をしっかり持ち患者さんと向き合って支えていけるような看護師を目指していきたいと思います。



旬の食材で健康なからだと栄養管理

「転ばぬ先の杖」^{かつお}鰹の栄養で筋肉を増やし丈夫なからだに

栄養科次長・管理栄養士 なかざわ まこと
中澤 誠

この時期に旬をむかえる鰹、南の海から北に泳いでくるので「上りかつお」と呼ばれ、俳句の季語として引用されるほど日本人にはなじみ深く、一般的に食べられるようになったのは江戸時代からだそうです。

かつおは他の魚に類を見ないほどタンパク質が多く、中でも筋肉を増やす効果のあるタンパク質（分岐鎖アミノ酸）が豊富で、その量は牛肉や卵の2倍も含まれています。かつおの「血合い」が苦手という人も多いかと思いますが、その血合いは認知症予防や貧血改善、疲労回復といった効果のあるビタミンB群の宝庫となります。この時期、調理に手間が少ない献立である「かつおのたたき」は、栄養士お勧めの身近な健康食と言えるでしょう。

かつおの選び方としては「切り身」の場合は赤色が鮮やかで透明感のあるものを選びましょう。かつおは鮮度が一番であるので、その日のうちに食べ切ることをお勧めします。翌日に持ち越す場合はだし醤油やオイルに漬けて「漬け」にすると違った味でも楽しめ、栄養価も比較的保たれます。

子供から大人まで食べやすい魚「かつお」を取り上げました。旬の食材を、からだに摂り入れることはもっとも健康に良いとされています。今の時期にぜひ！まぐろより安価なかつおを食べて丈夫なからだを手に入れて下さい。



診療科紹介

外科(消化器外科・小児外科・乳腺外科)

副院長・外科部長・手術部長 やまおか のぶ き
山岡 延樹

外科は、10名の常勤医師と非常勤医師（乳腺外科）1名が担当しております。手術は、月曜から金曜日の全日に加え、休日・夜間の緊急手術にも対応しています。下の表に示しますように、手術数は年々増加し、昨年の全身麻酔手術は580例、この5年間で30%以上増加しています。治療の対象は、食道・胃・大腸（結腸・直腸）・肝胆膵・虫垂・肛門・鼠径ヘルニアなどの消化器、乳腺疾患を中心に、外傷や皮膚・皮下疾患などに対応させていただいております。

過去5年間の外科手術数の推移

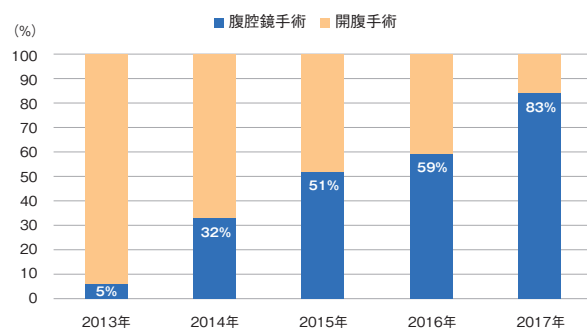
	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
手術総数	571	583	582	652	691
全身麻酔	435	456	481	525	580
胃癌	44(2)	44(14)	41(21)	37(22)	30(25)
大腸癌	72(17)	59(34)	73(47)	80(62)	80(65)
肝切除	3	3	9	17	21(1)
膵切除	5	6	7	8	6
胆嚢摘出	57(48)	68(49)	82(69)	104(75)	120(96)
鼠径ヘルニア	115	126(8)	113(24)	109(39)	120(67)
虫垂炎	46(29)	50(41)	64(62)	53(52)	63(59)
乳癌	17	13	11	19	20

()内は腹腔鏡手術数

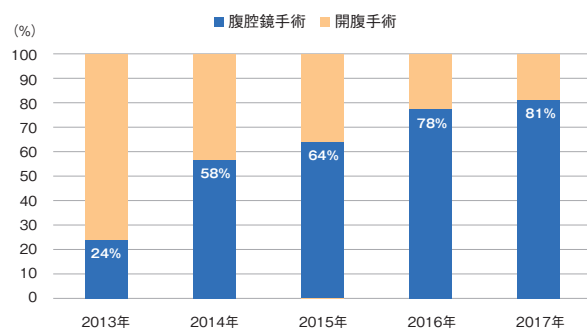
常に新しい術式の導入、とくに手術の低侵襲化のため積極的に腹腔鏡手術を導入しています。腹腔鏡手術では、お腹に小さい切開を数か所加え、その傷から「腹腔鏡」といわれるカメラや腹腔鏡手術用の器具を挿入し、カメラ映像を見ながら手術を行います。腹腔鏡手術では、従来のお腹を切る開腹手術に比べて、小さな傷ですむために術後の痛みが少なく、それに伴い回復が早いため、当院では積極的に腹腔鏡手術を行っています。右の図はこの5年間の腹腔鏡手術の胃癌、大腸癌手術全体（腹腔鏡手術+開腹手術）に占める割合を示していますが、昨年はどちらのがんに対しても80%以上を腹腔鏡手術で行うことができました。



胃癌手術における腹腔鏡手術の割合



大腸癌手術における腹腔鏡手術の割合



当院では、胃癌、大腸癌だけではなく、食道癌、肝臓癌、胆石症、虫垂炎、鼠径ヘルニアなど、幅広い疾患に腹腔鏡手術を実施しています。ただ、腹腔内の癒着の強い場合や、高度肥満、進行がんの場合は適応外になる場合があります。適応に関しましては、正確な術前診断のもと最終的に判断することとなりますので、まずは御相談下さいませようお願いします。

今回は、当科での手術治療について説明しましたが、がんの治療は手術だけでは成り立ちません。化学療法（抗がん剤治療）、放射線治療、緩和医療（がんの診断時から終末期に至るまで）などの集学的治療の中から、最適な治療方針を患者さんとの十分なインフォームド・コンセントのもとに選択していくことを心掛けております。この地域での外科・がん領域における治療を当病院で完結できる体制を整え、今後も皆様のご要望にお応えすべく、より一層の努力を重ねてまいりますので、何とぞよろしくお願いいたします。

近隣の連携医療機関の先生方

楽しい子育て、応援します

高屋こども診療所

院長 高屋 和志 たか や かず し

1995年（平成7年）4月から9年間、公立南丹病院（現：京都中部総合医療センター）小児科に勤務させていただきました。在職中には、未熟児室の開設や24時間対応の小児科当直体制の開始などに関わらせていただきました。2004年4月、亀岡市立病院の開院に伴い異動した後2005年10月に出身地である園部町で開業しました。

小児科・アレルギー科を標榜していますが、子どもに関することなら何でも相談してもらえ診療所を目指しています。

スタッフの笑顔と誠実な対応、マスクの配布やオムツ処理、診察前予診の実施、診察後のおもちゃ提供等、子ども達（保護者）が嫌がらずに診療所へ来てくれるよう配慮しています。

小児科医の役割は、保護者（特にお母さん）の気持ちに寄り添い不安を解消することにあると考えます。子どもの状態をみて、病気の診断・見通しを伝え、子どもが過ごす家庭環境に合わせて無理なくできるホームケアと再受診の目安を説明します。診断が困難な疾患や経過が長引く症例は、京都中部総合医療センターへ紹介させてもらっています。平日夜も20時まで地域医療連携室に対応していただけるのはありがたいです。

保護者には、子どものことで心配があれば、夜間・休日でも#8000への電話相談か京都中部総合医療センターへの救急受診を勧めています。

今後ともよろしくお願いします。



小児救急でんわ相談

京都府では看護師または小児科医が電話に対応します。
年中無休で午後7時～翌朝8時まで
土曜日（祝日・年末年始を除く）は午後3時から翌朝8時まで

急な発熱・頭をぶつけた・嘔吐、
けいれんなど 判断に困ったら

8 0 0 0

歯から健康になろう

医療法人 中川幹也歯科診療所

院長 中川 幹也 なか がわ みき や

現在の南丹市日吉町出身で、祖父、父と歯科医院を開業しておりました。私は幼稚園まで日吉で育ち、小学校から自宅を京都市内に転居したので、父が運転する車で帰省する途中、夜叉が出そうな老ノ坂を通り亀岡を過ぎたら、何となく不気味な感じのする旧公立南丹病院（失礼！子供心にはです。）の前を通って園部まで来たらいいよ到着！家に帰ってきたー！とテンションが上がったのを覚えています。

東京と京都市内で約8年間勤務した後、やはり縁の深い口丹波で仕事がしたいとの気持ちに駆られ、平成4年春に亀岡市役所横の安町で開業しました。平成16年に城西小学校グラウンド横の現在地に移転し、26年目を迎えています。

「歯から健康になろう」のコンセプトのもと、歯周病治療、メンテナンスに力を入れて日々の診療をしています。また、近年のデジタル機器の発展はめざましく、CTや手術用顕微鏡（マイクロスコープ）、光学スキャナーなど、昔では考えられなかった機器の導入でより確実な診断、正確な治療をすることができるようになりました。

京都中部総合医療センター歯科口腔外科の先生方には、親知らずの抜歯、腫瘍や嚢胞等で大変お世話になっていますが、最近は特に粘膜疾患や腫瘍が増えているように思います。また、他科の先生方にも同様にお世話になり、今後は地域包括ケアシステムを確立するための医科歯科連携を促進すべく当院も微力ながらお役に立てればと考えています。

更なる発展を目指して名称変更された「京都中部総合医療センター」が地域の基幹病院として地域住民の方々に貢献されることを祈念いたします。



看護部のユニフォームが新しくなります

看護部CS委員会 ますたに 増谷 照代 てるよ 南出 圭子 みなみで けいこ まつぐ 眞継 美貴

看護部では、平成30年4月より活きいきとやりがいをもって働ける職場を目指し、職員のモチベーションアップを図る目的でユニフォームの変更を行いました。看護師のユニフォームは白色ワンピースタイプが定番でしたが、男性看護師も増加し、10年程前に動きやすさを重視したパンツタイプを取り入れました。

現在では、医療に携わる職種も増え、看護職は色付きのユニフォームを採用している医療機関も多くなってきています。当院も職員の意見を取り入れ、機能的でスタイリッ

シュなイメージのユニフォームに変更しました。このユニフォームを着て、当院で一緒に働きたいと思ってくれる看護師が増えることを願っています。

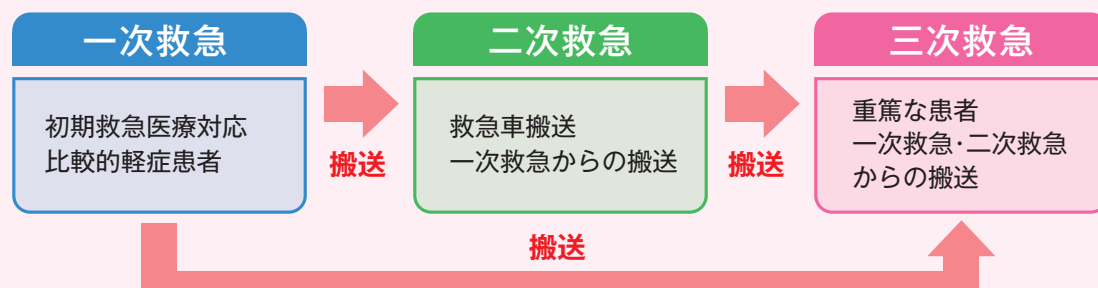
新たな気持ちで看護部一同、地域住民の皆様にも最善の看護が出来るよう頑張っていきたいと思しますのでよろしくお願いいたします。お気軽にいつでも声をかけてください。



京都中部総合医療センターの救急体制

当院では、24時間365日救急の患者さんを受け入れられるよう体制を整備しており、京都府からは「救急告示病院」に指定され、二次救急医療機関として救急隊からの要請にも日々対応しております。亀岡市、南丹市、京丹波町の南丹医療圏では、当院を含め5病院が救急告示病院に指定されています。

救急外来のお問い合わせ先
0771-42-2510(代)
24時間 365日対応



南丹医療圏には三次救急に指定されている病院がありませんが、当院では集中治療室を整備しており、第二病棟屋上のヘリポートではドクターヘリの受け入れも行っております。急性腹症に対する緊急消化管内視鏡処置や緊急開腹手術、また冠動脈カテーテル治療などには24時間対応できる救急高次機能を有し、二・五次救急とも言うべき役割を担っています。

かかりつけ医を持ちましょう

かかりつけ医とは・・・

普段の健康状態を把握してしてくれるもっとも身近な「主治医」のことです。

具合が悪くなったり、困ったときにはいっばんに受診できる「かかりつけ医」を持ちましょう。



総合受付①窓口

かかりつけ医についてのご相談は

地域医療連携室 電話 0771-42-5061 (直通)

受付時間 平日8:30~17:15

看護師・助産師募集 (正職員・臨時職員)

正職員・臨時職員共に院内保育所を利用できます。

看護師寮 (正職員のみ) 利用も可能です。

(月額10,480円)

〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
京都中部総合医療センター 総務課人事係

TEL 0771-42-2510(代) まで

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kyoto-chubumedc.or.jp>



編集後記

新年度が始まりましたが、平成としては最後の年度となります。譲位による改元という歴史的なイベントを経験できるのは、とても貴重なことだと思います。

当院も昨年(平成)の5月1日に「京都中部総合医療センター」へと名称を変更して、もうすぐ1年が経ちますが、新名称はまだまだ浸透していないのを感じています。皆様にとって、よりなじみ深い病院になるよう、楽しんでいただける広報誌を作って参りますので、これからもご愛読のほどよろしくお願いいたします。

広報委員 Y.T.

